ご使用のしおり

DreamLock 50S
DreamLock 50D
DreamLock 50

お買い求めいただき、ありがとうございました。

お客様にいつでもお気軽に使っていただくため、
ジャノメが心をこめて作りあげたミシンです。

はじめてお使いになる方には使いやすく、また、使いなれた方
にもいろいろな実用ぬいが簡単にできますので、
十分ご満足いただけると思います。

ご使用前に、この取扱説明書を十分、お読みください。
この取扱説明書は、お使いになる方が、いつでも見られる
ところに保管してください。

万一、使い方・修理などのアフターサービスが必要なときは、
お買い上げ店にお申しつけください。

目　次

準 備

ふちかがりぬい

応用ぬい

ミシンの調整と手入れ

別売りアタッチメント

●安全にご使用いただくために

ご使用前に、この取扱説明書を十分、お読みください。
この取扱説明書はお使いになる方が、いつでも見られるところに保管してください。
このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを守ってください。
このミシンは、日本国内向け家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY.

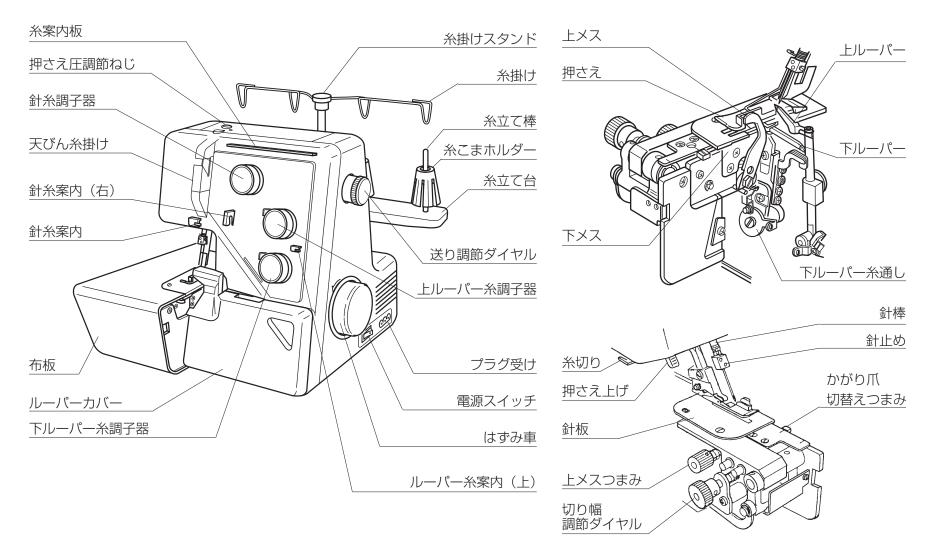
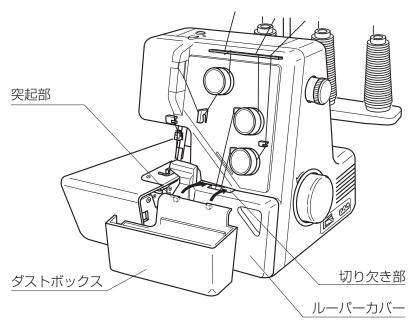
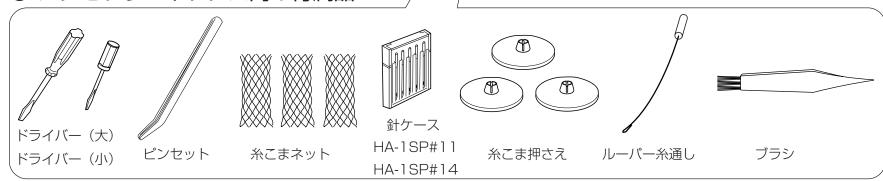
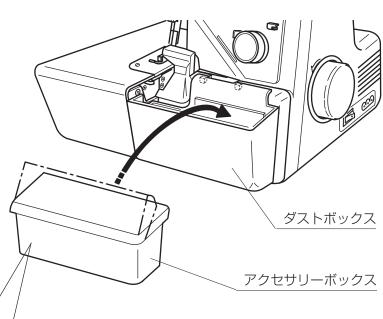
⚠ 警告 感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
2. 以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
   - ・ミシンのそばを離れるとき
   - ・ミシンを使用したあと
   - ・ミシン使用中に停電したとき

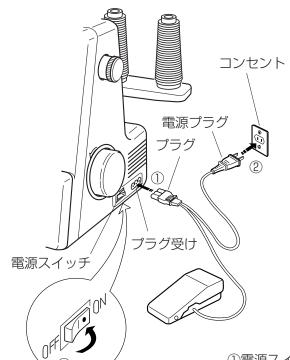
⚠ 注意 感電、火災、けがの原因となります。

1. フットコントローラーの上に物を乗せないでください。
2. お客様自身での分解、改造はしないでください。
3. ミシンの操作時は、ルーパーカバー、布板などのカバー類を閉じてください。
4. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、ルーパー、メス、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
5. 曲がった針はご使用にならないでください。
6. ぬいの途中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が押さえにあたり、けがの原因になります。
7. お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
8. 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。
   - ・針、針板、押さえ、アタッチメント、メスを交換するとき
   - ・針糸、ルーパー糸をセットするとき
   - ・電球を交換するとき（電球が冷えてから行ってください）
   - ・取扱説明書に記載のあるお手入れを行うとき
9. ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
   - ・正常に作動しないとき
   - ・落下などにより破損したとき
   - ・水に濡れたとき
   - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき
   - ・異常な臭い、音がするとき
10. 電源プラグを取扱うときには、以下の点に注意してください。
   - ・コンセントから電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。
   - ・濡れた手で使用しないでください。

●各部の名まえ

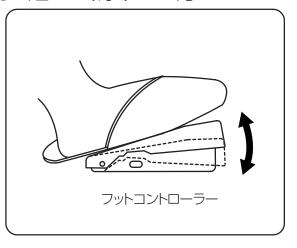
糸案内板
押さえ圧調節ねじ
針糸調子器
天びん糸掛け
針糸案内（右）
針糸案内
布板
ルーパーカバー
下ルーパー糸調子器
糸掛けスタンド
糸掛け
糸立て棒
糸こまホルダー
糸立て台
送り調節ダイヤル
上ルーパー糸調子器
プラグ受け
電源スイッチ
はずみ車
ルーパー糸案内（上）
上メス
押さえ
上ルーパー
下ルーパー
下メス
下ルーパー糸通し
針棒
針止め
糸切り
押さえ上げ
かがり爪
切替えつまみ
針板
上メスつまみ
切り幅
調節ダイヤル

● 標準付属品

ルーパーカバーの切り欠き部にダストボックスの突起部を差し込み、布くず受けとして使用します。

ミシンをお使いにならないとき、アクセサリーボックスはダストボックスに収納できます。

● アクセサリーボックス内の付属品

● 電源をつなぎましょう

⚠ 警告
・電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。 ・ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電、火災の原因になります。 ・電源プラグは定期的に抜いて乾いた布で拭き、ほこりなどを取り除いてください。 ほこりなどが付着していると湿気などにより、絶縁不良となり火災の原因になります。

①電源スイッチを「OFF」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。
②電源プラグをコンセントにさしこみます。
③スイッチを「ON」にします。

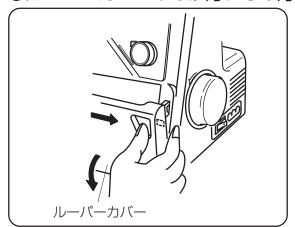
⚠ 注意
電源プラグやプラグを抜くときは、コードをひっぱらないでください。

● 速さの調節のし方

ミシンの速さは、フットコントローラーで調節します。
※フットコントローラーは、深く踏み込むと、速くなります。

⚠ 注意
フットコントローラーの上に、物を置かないでください。

●はずみ車の回転方向

※はずみ車は、手前にまわします。

●布板のあけ方、しめ方

⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。 けがの原因になります。

★あけ方
左へ押してあけます。

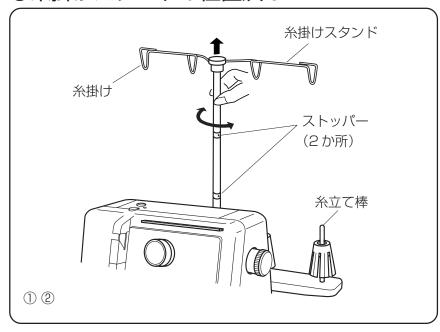
★しめ方
右へ押してしめます。

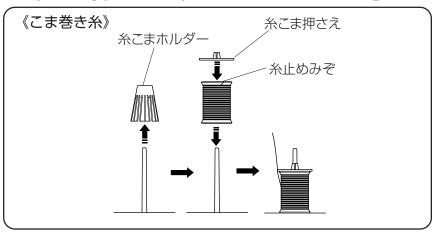
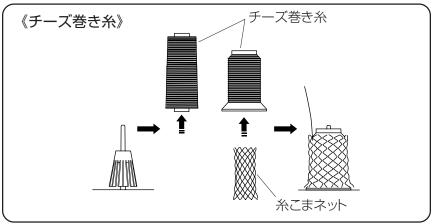
●ルーパーカバーのあけ方、しめ方

⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。 けがの原因になります。

★あけ方
右いっぱいに寄せながら、手前にひきます。

★しめ方
持ちあげて軽く向こう側へ押すと自動的にもとの位置にもどります。

●糸掛けスタンドの位置決め

①糸掛けスタンドをいっぱいまに伸ばします。
②糸掛けが糸立て棒の真上にくるように、糸掛けスタンドを回転させて、ストッパーで位置を決めます。

●糸こま押さえ、糸こまネットのつけ方

このミシンはこま巻き糸と、チーズ巻き糸が使用できます。
＊こま巻き糸は、糸巻きの糸止めみぞのあるほうを上にして、糸こま押さえをはめてください。
＊化繊糸などの巻きがくずれやすい糸を使用するときは、付属の糸こまネットを下からかぶせてご使用ください。

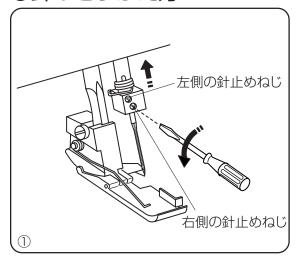
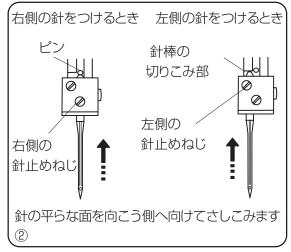
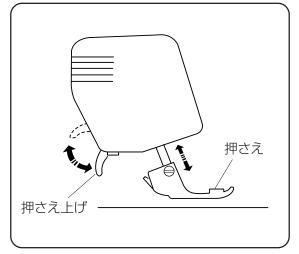
●針のとりかえ方

⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。けがの原因になります。

①針をあげ、とりかえようとしている針の方の針止めねじをゆるめて、針をはずします。

②<u>右側の針をつけるとき</u>
針止めの右側の穴に、針の平らな面を向こう側に向けて、奥いっぱいにピンにあたるまでさしこみ、右側の針止めねじをかたくしめます。
<u>左側の針をつけるとき</u>
針止めの左側の穴に、針の平らな面を向こう側に向けて、奥いっぱいに針棒の切り込みにあたるまでさしこみ、かたくしめます。

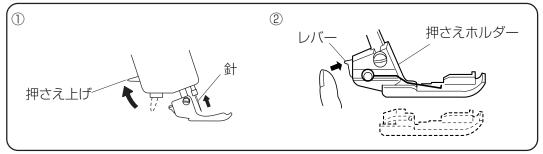
＊使用しない針側の針止めねじは、はずれないようにかるくしめておきます。

⚠ 注意
全体にまがった針や、針先のまがったりつぶれた針は、使用しないでください。

●押さえのあげ方、さげ方

押さえ上げをあげさげして、押さえをあげたりさげたりします。

★一般に、糸を通しなおすとき以外は、押さえをさげたままにして使用します。

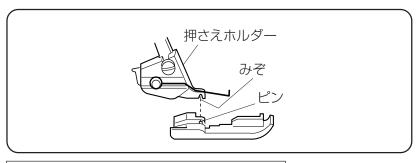
★押さえをあげても、糸調子はゆるみません。

●押さえのはずし方、つけ方

★はずし方

⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。 けがの原因になります。

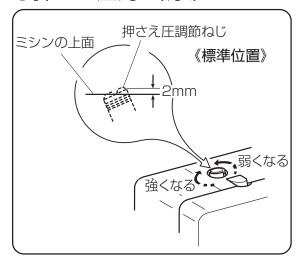
①針をあげ、押さえ上げをあげます。

②押さえホルダーのレバーを押して、押さえをはずします。

★つけ方

⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。 けがの原因になります。

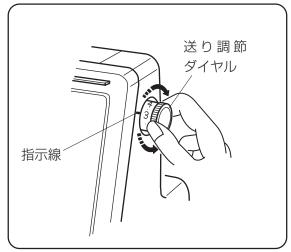
押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下において、押さえ上げをさげれば自動的にセットされます。

＊押さえ上げをあげ、押さえが確実についていることを確認してください。

●押さえ圧力の調節

このミシンは、通常、押さえ圧を調節する必要はありませんが、極うすもの、極厚もののとき押さえ圧調節ねじで調節してください。

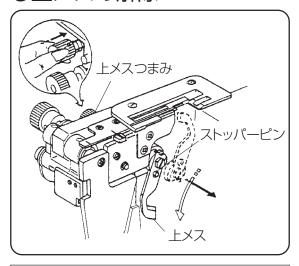
・極うすもののときは、圧力を弱くします。
・極厚もののときは、圧力を強くします。

＊ぬい終わったら、押さえ圧調節ねじは標準位置にもどしておいてください。
押さえ圧調節ねじの標準位置は、面板側の真横から見て、ミシンの上面からおよそ2mm位高い位置です。

●ぬい目あらさの調節

送り調節ダイヤルをまわして、目盛を指示線にセットします。

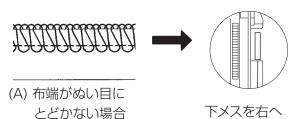
＊ぬい目のあらさは、最小1mmから最大5mmまで調節できます。
＊送り調節ダイヤルの目盛り「R」は、巻きぬいおよび細ロックぬいをするときのぬい目のあらさ（1.3mm～1.7mm）です。

●上メスの解除

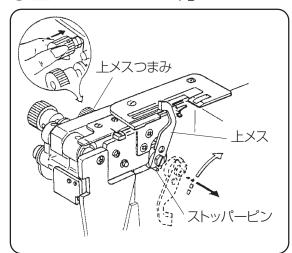
⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。 けがの原因になります。

①ルーパーカバーと布板をひらきます。

②上メスつまみを右いっぱいに押しながら、手前に回してストッパーピンを上メスの穴に入れます。

③ルーパーカバーと布板をしめます。

(A) 布端がぬい目にとどかない場合

下メスを右へ

●上メスのもどし方

⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。 けがの原因になります。

①ルーパーカバーと布板をひらきます。

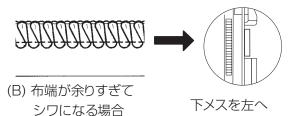
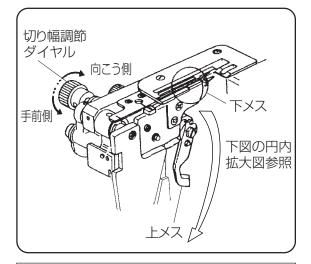
②上メスつまみを右へいっぱいに押しながら、向こう側に回してストッパーピンを上メスの下側の溝に入れます。

③ルーパーカバーと布板をしめます。

(B) 布端が余りすぎてシワになる場合

下メスを左へ

●切り幅の調節

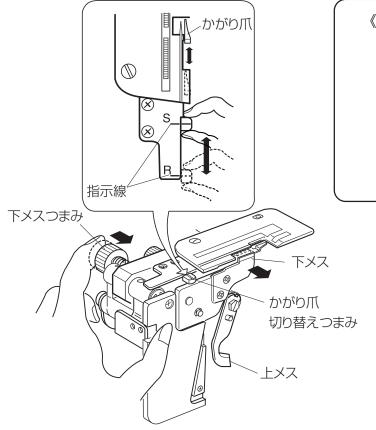
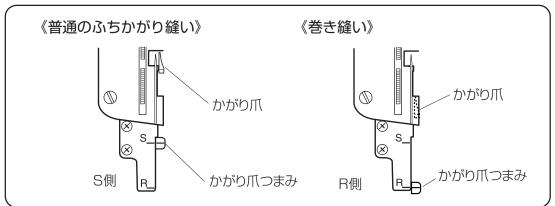
⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。 けがの原因になります。

①ルーパーカバーと布板をひらきます。

②上メスを解除します。

③ (A) 布端がぬい目にとどかない場合、
切り幅調節ダイヤルを手前側へまわして下メスを右へ移動します。
(B)布ふちが余りすぎてシワになる場合、切り幅調節ダイヤルを向こう側へまわして下メスを左へ移動します。

④上メスをもどし、ルーパーカバーと布板をしめます。

●ふちかがりぬいと巻きぬいの切り替え（かがり爪位置の切り替え）

⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。 けがの原因になります。

①ルーパーカバーと布板をひらきます。

②上メスを解除します。

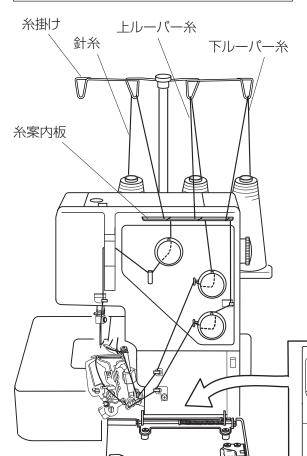
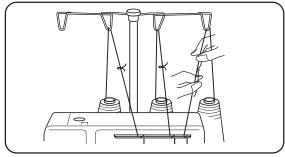
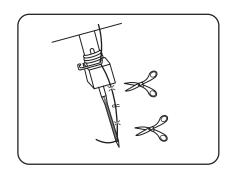
③下メスつまみを右いっぱいに押しながら、かがり爪切り替えつまみを普通のふちかがりぬいの時は「S」側へ、巻きぬいの時は「R」側へ移動します。

④下メスつまみは手をゆっくりはなせば、もとにもどります。

⑤上メスをもどし、ルーパーカバーと布板をしめます。

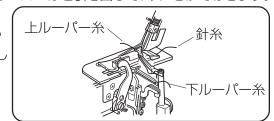
●糸の通し方

⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。 けがの原因になります。

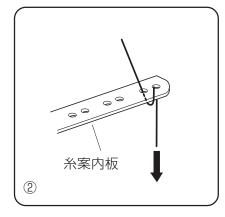
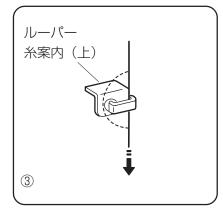
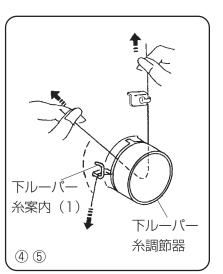
＊糸道案内図は、ルーパーカバーの内側にあります。

このミシンは、あらかじめ糸がセットしてありますが、糸替えをするときは次のようにしてください。

1. 糸掛けスタンドの糸掛けに通してから糸をつないでください。
2. 押さえ上げをあげ、結び目を押さえの下から向こう側へ出るまで引き出します。
3. ただし、針糸は、針の手前にたるみを作ってから引き出します。（針のまがり防止）結び目は、針穴の手前で止め、結び目を切ってから針穴に通します。
4. ぬい始める前に、押さえの下で各糸をはらって、針糸が針板の下にないことを確認してから、押さえの後ろへ 10cm ほど各糸を引き出します。
5. 押さえをおろしてから、ぬい始めます。

● 糸替えをしたときや、切れた糸を通し直したときは、次のようにしてぬい始めることもできます。

1. はずみ車を手前にまわして針を最上部にあげておき、上ルーパー糸の糸端を上ルーパーの先端から押さえ上に 10cm ほど出します。
2. 下ルーパー糸の糸端を糸穴から10cmほど引き出して、下にさげておきます。
3. 針糸が針板の下にないことを確認してから、押さえの下から後ろへ 10cm ほど引き出します。
4. 押さえをおろしてから、ぬい始めます。

★下ルーパー糸の通し方

⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。 けがの原因になります。

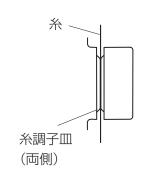
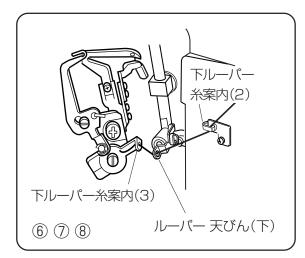
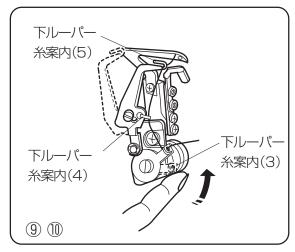
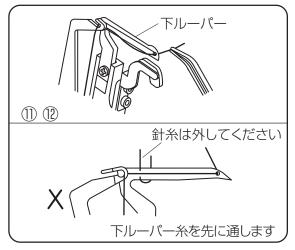
①糸こまから糸を引き出して、右前の糸掛けにかけます。

②糸案内板の右側の 2 つの穴に通します。

③ルーパー糸案内（上）にかけます。

④右手で糸を押さえ、左手で糸端をつまんで、下ルーパー糸調子器の下側にまわした糸を、図のように引き上げて、糸調子皿の間に入れます。

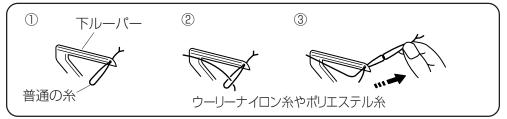
⑤下ルーパー糸案内（1）にかけます。

＊糸は必ず糸調子皿の間に確実に入れてください。

＊緑色マークの糸道を通してください。

＊ルーパーカバーと布板をひらきます。

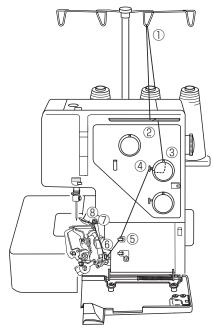
＊糸道案内図は、ルーパーカバーの内側にあります。

⑥下ルーパー糸案内（2）にかけます。
⑦はずみ車をまわして、ルーパー天びん（下）をかけやすい位置にしてから糸を通します。
⑧下ルーパー糸案内（3）に糸を通します。

⑨はずみ車を回して、下ルーパーを最右点にして下ルーパー糸案内（3）を持ち上げると、下ルーパ糸案内（4）、（5）が上方に現れます
⑩下ルーパー糸案内（4），（5）に糸をかけます。
＊糸の先端を持って、はずみ車を手前に回すと、下ルーパー糸案内（3）、（4）、（5）は、もとの位置に自動復帰します。

⑪はずみ車をまわして、下ルーパーを最右点にして、下ルーパー糸穴に糸を通します。
＊この際、針糸が下ルーパーにを捕捉されたままで糸通しをしないで、針糸を一度外して下ルーパー糸を先に通してください。
⑫糸端は、押さえの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。布板をしめます。

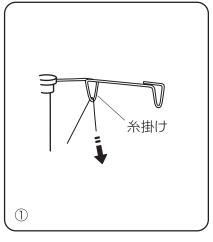
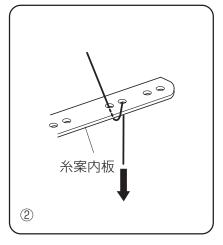
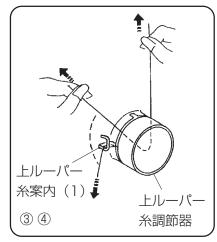
〈ウーリーナイロン糸やポリエステル糸の通し方〉

下ルーパーの穴に通しにくいウーリーナイロン糸やポリエステル糸などは、上図の方法で通します。
＊上ルーパーの場合にも、同じ方法で糸通しをしてください。

⚠ 注意

電源スイッチを切ってから行なってください。けがの原因になります。

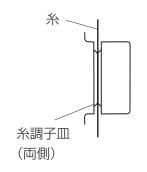
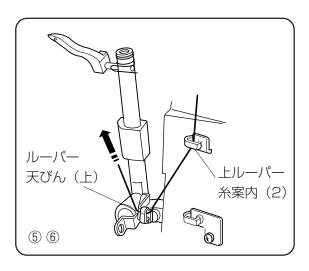
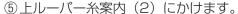
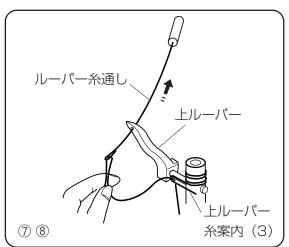
★上ルーパー糸の通し方

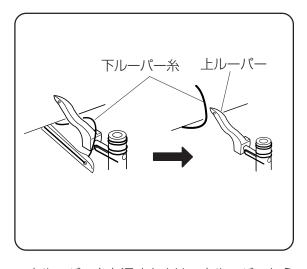
⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。 けがの原因になります。

＊赤色マークの糸道を通してください。

＊糸道案内図は、ルーパーカバーの内側にあります。

①糸こまから糸を引き出して、右から 2 番目の糸掛けにかけます。

②糸案内板の右から2番目の2つの穴に通します。

③右手で糸を押さえて、左手で糸の先端を引き、上ルーパー糸調子器の糸調子皿の間に入れます。

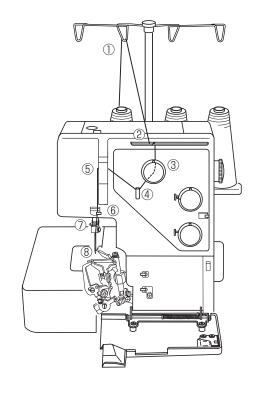
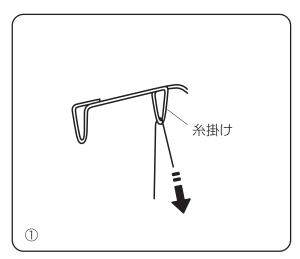
④上ルーパー糸案内（1）にかけます。

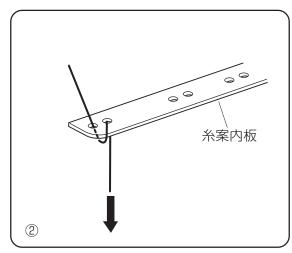
＊糸は必ず糸調子皿の間に確実に入れてください。

⑤上ルーパー糸案内（2）にかけます。

⑥はずみ車をまわしてルーパー天びん（上）をかけやすい位置にしてから、糸をかけます。

⑦上ルーパー糸案内（3）にかけます。

⑧ルーパー糸通しを上ルーパーの穴に通して、糸通しの先端に糸ループをひっかけて引きもどします。
ルーパー糸通しをはずし、糸端を押さえの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

＊上ルーパー糸を通すときは、上ルーパーから下ルーパー糸をはずして上ルーパー糸を通します。

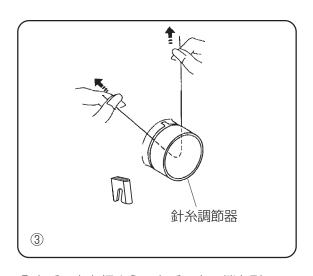
⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。けがの原因になります。

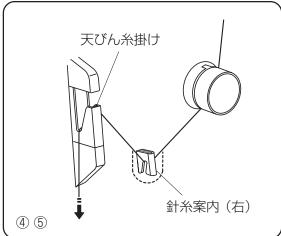
★針糸の通し方

①糸こまから引き出した糸を、左から２番目の糸掛けにかけます。

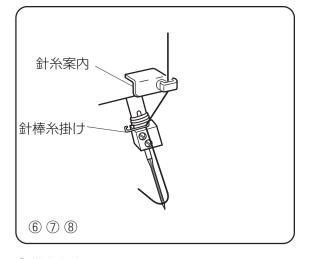
②糸を糸案内板の左の２つの穴に通します。

＊オレンジ色マークの糸道を通してください。

＊糸道案内図は、ルーパーカバーの内側にあります。

⚠ 注意

電源スイッチを切ってから行なってください。けがの原因になります。

③右手で糸を押さえ、左手で糸の端を引いて、針糸調子器の糸調子皿の間に入れます。

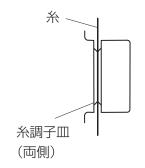
＊糸は必ず糸調子皿の間に確実に入れてください。

④はずみ車をまわして針を最上部にあげ、糸を針糸案内（右）にかけます。

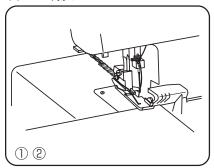
⑤天びん糸掛けにかけます。

⑥針糸案内にかけます。

⑦針棒糸掛けにかけます。

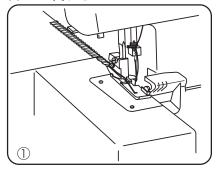
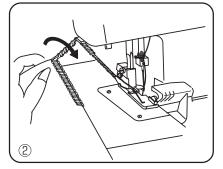
⑧針穴に糸を手前から向こう側に通します。糸は、押さえの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

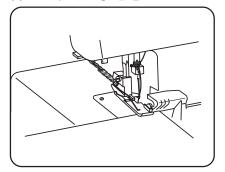
⚠ 注意

電源スイッチを切ってから行なってください。
けがの原因になります。

●試しぬいをしましょう

★ぬい始め

①押さえ上げをさげます。

②各糸を押さえの下から向こう側に引きそろえて、ゆっくりぬいはじめ、5～6cm、カラぬいをします。
カラぬいした糸のからみぐあいを確かめてから、布をセットしてぬいはじめます（押さえをあげる必要はありません）。
布は自動的に送られますから、手は、ぬいたいと思う方向に布を導くだけにしてください。

★ぬい終わり

①布端までぬいおわったら、そのままミシンを低速で、約12～13cm、カラぬいをします。

②布の端より5～6cm残し、カラぬいをした糸を糸切りか、はさみで切ります。

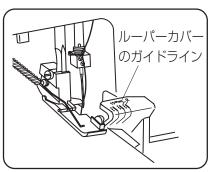
★つづけてぬうとき

押さえ上げをあげずに、つぎの布地を押さえの下に差し込むようにしてぬいます。

＊厚い布をぬうときは、押さえ上げをあげ、布地を上メスの手前まで差し入れ、押さえ上げをさげてぬいます。

〈糸調子の出し方〉

①針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の各糸調子器は、目盛「3」を基準にして試しぬいをします。

②糸調子のバランスがとれていないときには、22～24ページを参照して正しく調節してください。

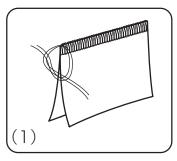
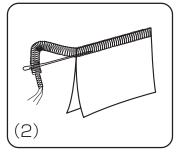
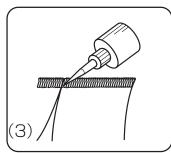
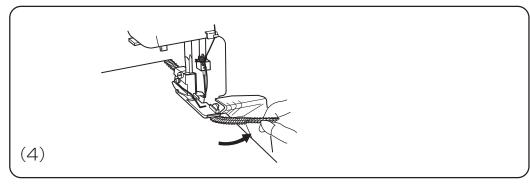
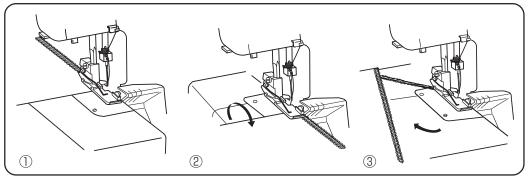
★ガイドラインの使い方

ルーパーカバーの上部には、針落ちからの距離を示すガイドラインを用意してあります。
切り落としの目安としてお使いください。

3本ある刻み線の中央は針落ちから15mmで実線が右針、点線が左針からの距離を表しています。

●ぬい始め、ぬい終わりの糸の始末・ぬい目のほどき方

(1)

(2)

(3)

ぬい始め、ぬい終わりの糸をそのままにしておくとほつれてしまいます。ぬい始め、ぬい終わりの糸の始末には色々な方法がありますので、お好みの方法をお選びください。

(1) 5cm位のカラぬい糸をほどき、その糸を使って布端で結び目を作る方法。
(2) カラぬい糸をトジ針でぬい目の中に入れる方法。
(3) 布端のカラぬい糸の根元に手芸用ボンドを少し付け乾燥してから余分な糸を切り落とす方法。
(4) ロックミシンで始末する方法。

★ぬい始め

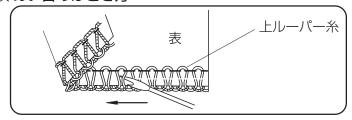
(4)

① カラぬい糸を5cm位出しておきます。
② 布地を入れ、2～3針だけぬいます。
③ ミシンを止め、押さえをあげます。
④ カラぬい糸は左から押さえの下に入れ、軽く手前に引きながら、押さえを下げ、布といっしょにぬい込みます。
⑤ 余分なカラぬい糸はメスにかかるようにします。

★ぬい終わり

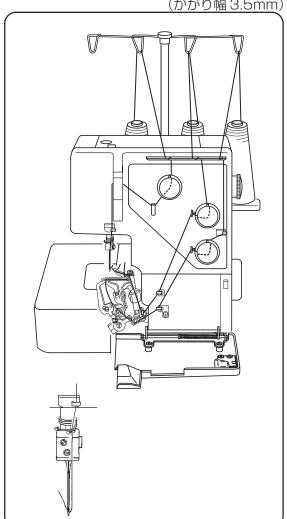
① ② ③

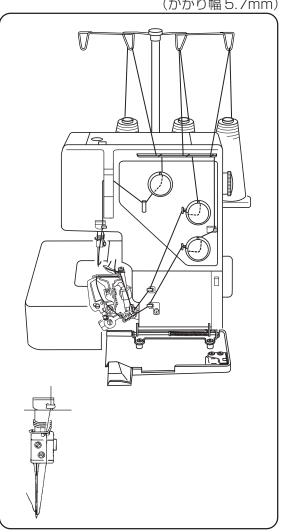
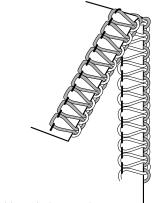
①布地の終わりの所でミシンを止めます。
②針と押さえをあげ、布地をかがり爪からはずして裏返します。かがり幅に合わせて針を落とし、押さえをさげます。
③今までぬった所がメスに当たらないように2～3cmぬいながら横方向に布地をはずします。

★ぬい目のほどき方

上ルーパー糸のすべてを市販のリッパーなどで布地を痛めないように切断しますと、簡単にぬい目がほどけます。

●糸調子の出し方（1 本針 3 本糸）

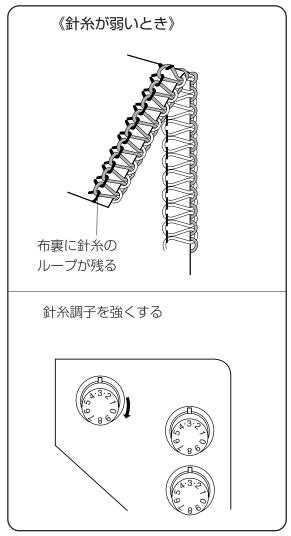
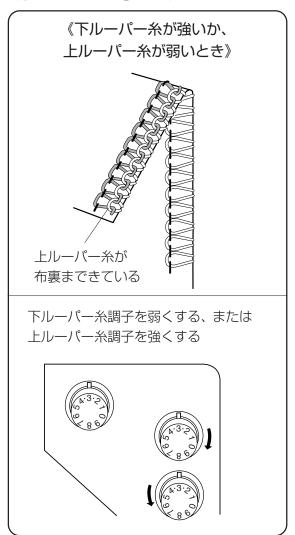
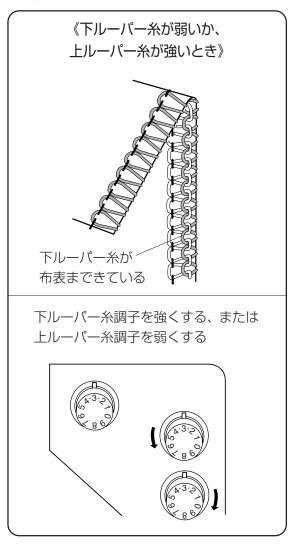
★右針を使うときの糸の通し方

（かがり幅 3.5mm）

★左針を使うときの糸の通し方

（かがり幅 5.7mm）

★正しい糸調子

＊ 1 本針 3 本糸での糸調子は
右針を使用のときは3-3-3が基準ですが、左針を使用のときは1目盛あげて4-3-3を基準にしてください。

＊ 使用しない針側の針止めねじは、ゆるんではずれないように軽くしめておきます。

★糸調子の調節のし方

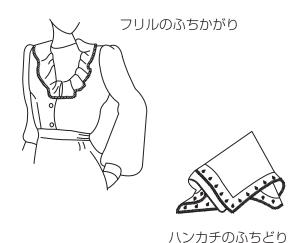
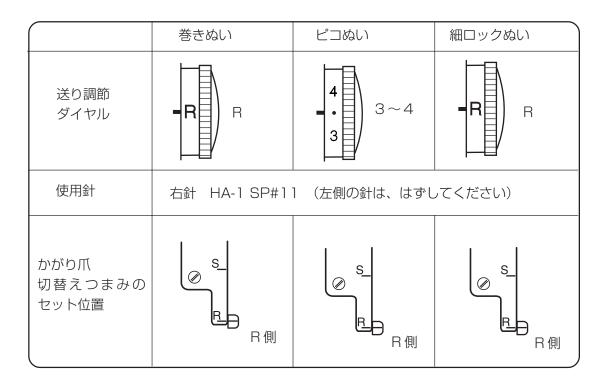
＊ 針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の３つの糸調子器は、目盛「3」を基準に試しぬいをして正しく調節してください。

＊ 最初に針糸から調節してください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安（ふちかがりぬい）

布の種類		糸	針	送り調節ダイヤル	かがり爪切替えつまみのセット位置	糸調子の目安
うすい布	オーガンジー、ジョーゼット、ローン、クレープデシン、裏地	化繊糸 ＃80～100	HA-1SP ＃11	2.0～3.0mm	S側	3つの糸調子器は、右針のとき、3-3-3 左針のとき、4-3-3 を基準に試しぬいをして正しく調節してください。
普通の布	木綿地、リンネル、サテン	化繊糸 ＃60～100	HA-1SP #11～14	2.5～3.5mm		
厚い布	ツイード、コート地、デニム、ドスキン	化繊糸 ＃50～60	HA-1SP ＃14	3.0～3.5mm		
ニット地	メリヤス、編地	化繊糸 ＃60～90 ウーリーナイロン糸（ルーパー糸用）	HA×1SP ＃11～14	2.5～3.5mm		

●巻きぬい、ピコぬい、細ロックぬい(応用ぬい)

〈実用例〉

	巻きぬい	ピコぬい	細ロックぬい
送り調節ダイヤル	R	3～4	R
使用針	右針　HA-1 SP#11　(左側の針は、はずしてください)		
かがり爪切替えつまみのセット位置	R側	R側	R側

★布と糸の種類と糸調子の目安

糸調子の目安は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがありますので、ぬい目を見ながら各糸調子器で調節してください。

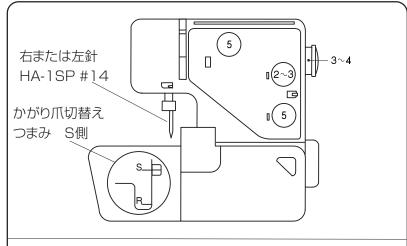
		巻きぬい	ピコぬい	細ロックぬい
うすい布 オーガンジー クレープデジン ローン ジョーゼット	針糸（右）	化繊糸　＃80～100		
	上ルーパー糸 下ルーパー糸	ウーリーナイロン糸	化繊糸　＃60～100	ウーリーナイロン糸
	糸調子の目安	針糸調子器 4 上ルーパー糸調子器 3 下ルーパー糸調子器 7	針糸調子器 4 上ルーパー糸調子器 3 下ルーパー糸調子器 6	針糸調子器 4 上ルーパー糸調子器 4~6 下ルーパー糸調子器 4
	正しい糸調子			
上手に仕上げるには		ぬい始めは、カラぬいした糸を指で少し向こう側へ引きぎみにしてぬうときれいに仕上がります。	布を軽く向こう側へ引きながらぬうと、きれいに仕上がります。	糸調子の調節のし方は、普通のふちかがりぬいと同じです

●ふち飾りぬい

《実用例》

＊糸調子の目安は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがあります。ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

◆ミシンのセット

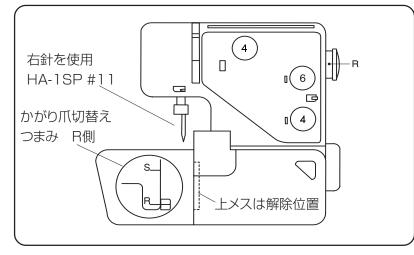
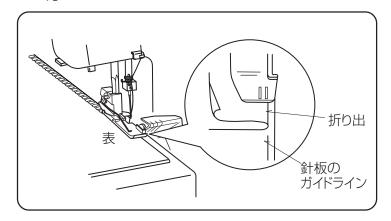
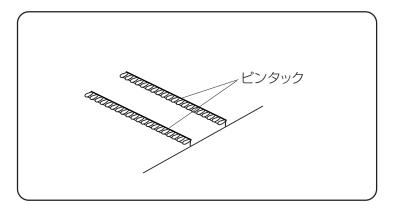
布	使用糸	
普通の布 厚い布	針糸（右、左）	化繊糸　＃60～80
	上ルーパー糸	飾り糸、極細毛糸
	下ルーパー糸	化繊糸＃60～100

太い糸を使用するとき、ぬい始めとぬい終わりは、カラぬいした糸を軽く向こう側へ引きながらぬうときれいに仕上がります。

●ピンタック

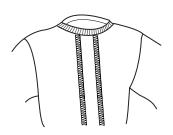
《実用例》

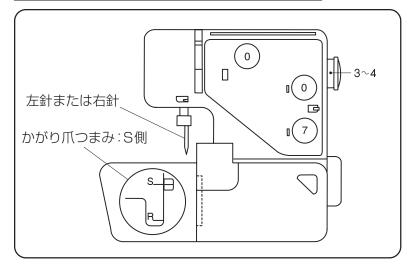
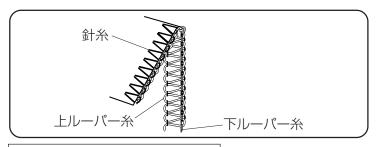
＊糸調子の目安は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがあります。ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

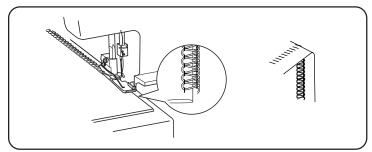
◆ ミシンのセット

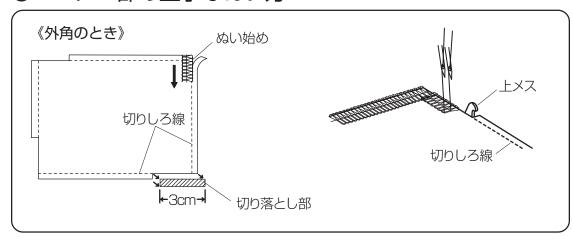
布	使用糸	
うすい布 ニット地	針糸（右針）	化繊糸　＃60～80
	上ルーパー糸 下ルーパー糸	化繊糸 ＃60～100

ぬい方

左側の針をはずしてください。（3本糸でぬいます。）
上メスを解除します。
折り山がガイドラインにそうようにしてぬいます。

布をひらいて、アイロンで山を片側に倒します。
上メスをもとにもどします。

●フラットロックぬい

《実用例》

◆ミシンのセット

普通の布 ニット地	針糸	化繊糸＃60～100
	上ルーパー糸	飾り糸
	下ルーパー糸	化繊糸＃60～100

⚠ 電源スイッチを切ってください。

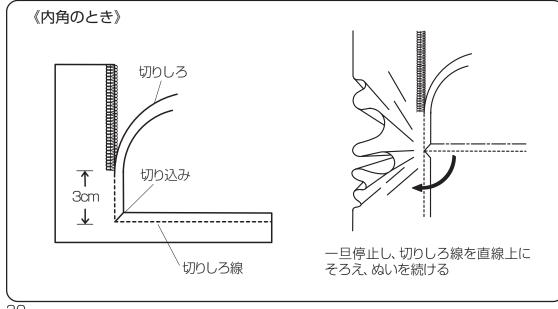
① 左または右針を使用します。
② 上メスを解除します。
③ 電源スイッチを入れます。
④ 糸調子は、1本針3本糸ふちかがりぬいの糸調子に合わせ、試しぬいをします。
　上ルーパーの糸調子は弱くし､下ルーパーの糸調子は強めにします。
　上ルーパー糸、下ルーパー糸、針糸が全部布の縁にそろうように、針糸調子を弱くします。
　下ルーパー糸は布端で直線になります。

⑤ 布は外表に2つ折りでぬいます。
⑥ ぬい目が布からはみだすようにセットします。
　ぬい終わったら､布を広げ裏からアイロンで仕上げます。
※ オプションの布ガイドを使うときれいに仕上がります。

●コーナー部の上手なぬい方

①四すみのうち、ぬい始め部をのぞく角を図のように切りしろ線にそって約 3cm 切り落とします。

②ぬい始め部から次の角までぬい終わったとき、ミシンを停止し、針と押さえをあげ、ゆっくりと布をまわして切りしろ線に上メスを当てるようにセットします。

③押さえをさげます。

④コーナー部でぬい目が重なるようにぬいを続けます。

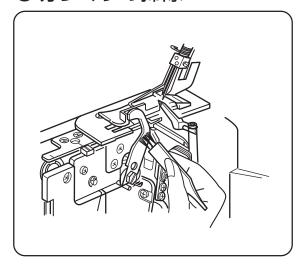
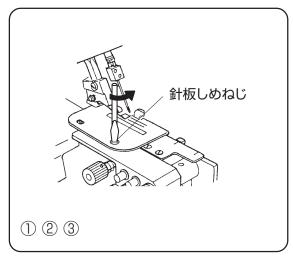
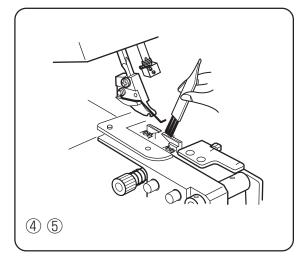
一旦停止し、切りしろ線を直線上にそろえ、ぬいを続ける

①あらかじめコーナー部に切り込みを入れます。

②コーナー部に向かってぬい進み、切り込みの約 3cm 手前でミシンを一旦とめます。

③次にぬわれる切りしろ線を直線上にそろえ押さえの下側へ送り込みます。

④そのままぬい進みますと内角のぬいがきれいに仕上がります。

●切りくずの掃除

⚠ 注意

電源スイッチを切ってから行なってください。
けがの原因になります。

ルーパーカバーをひらき、切りくずをブラシで取り除きます。

●送り歯の掃除

⚠ 注意

電源スイッチを切ってから行なってください。
けがの原因になります。

①ルーパーカバーと布板をひらきます。

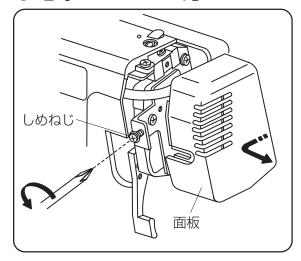
②針と押さえをはずします。

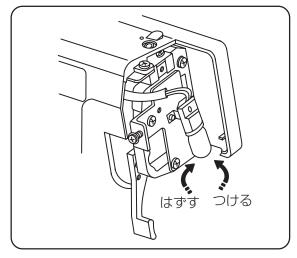
③針板しめねじをゆるめ、針板をはずします。

④送り歯のごみを、ブラシで落とします。

⑤針板、押さえ、針をとりつけ、ルーパーカバーと布板をしめます。

＊ブラシで掃除しにくい切りくずや、ほこりは、電気掃除機で吸い取ってください。

●電球のとりかえ方

⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。 けがの原因になります。

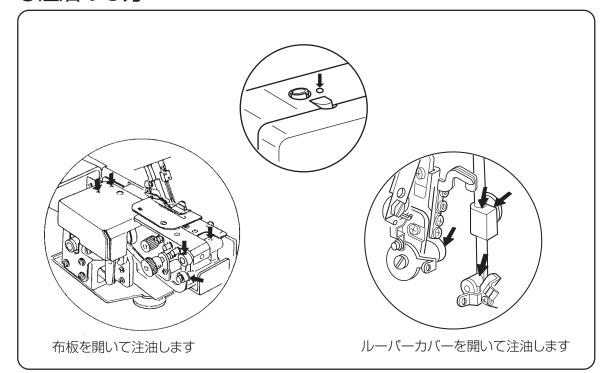
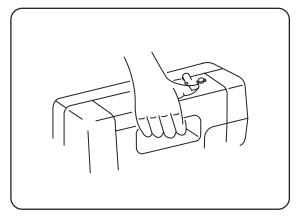
① しめねじをゆるめ、面板をはずします。

② 電球をはずすとき……左にまわします。
電球をつけるとき……右にまわします。

③ 電球をとりかえおわったら、面板をとりつけます。

⚠ 注意
電球をとりかえるときは、電球が冷えていることを確認してください。 電球を外した状態でミシンを使用しないでください。
＊このミシンの電球は照明用 100V － 12W を使用してください。

●注油のし方

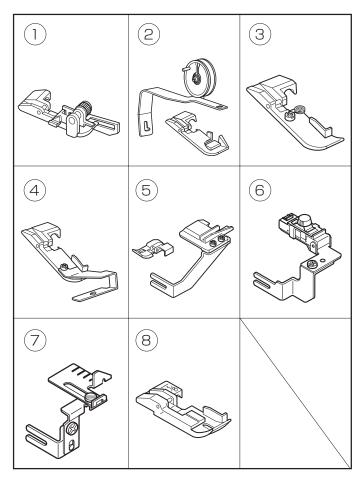
⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行なってください。 けがの原因になります。

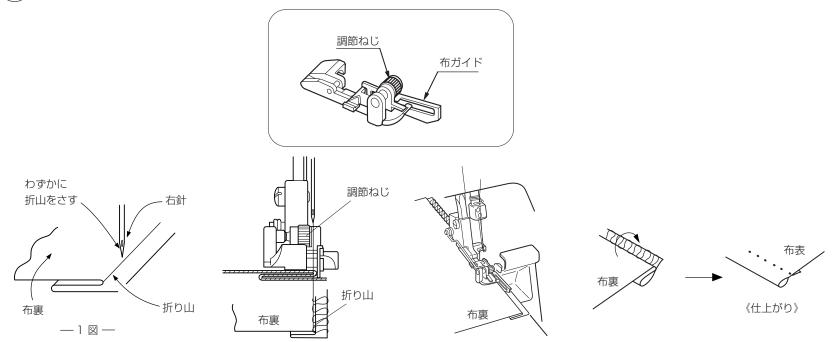
矢印の箇所に良質のミシン油を１～２滴注油します。
注油後、布板とルーパーカバーをしめ、押さえをあげます。
電源スイッチを入れ、１～２分ほどミシンを回転させて、よく油をしみこませます。
一般家庭では１週間に１度、継続して使用するときは、10時間に１回くらい。また、しばらく使用しなかったときは、使う前に一通り注油してください。

●ミシンの持ち運び方

ミシン本体裏側の上部にくぼみがありますので、図のように指をかけますと、持ち運びができます。

●調子がよくないときの直し方

調子がよくない状態	原　　因	直し方
布地を送らない。	①押さえがあがっている。 ②送り歯が糸くずでつまっている。	押さえをおろす。 30ページ参照
針が折れる。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③布地を無理に引っぱった。	8ページ参照 8ページ参照 ぬう時は軽く引く程度にする。
糸が切れる。	①糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ②糸調子が強すぎる。 ③針のつけ方がまちがっている。 ④針がまがっていたり、針先がつぶれている。	13～19、22ページ参照 22～24、26～28ページ参照 8ページ参照 8ページ参照
ぬい目がとぶ。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。	8ページ参照 8ページ参照 13～19、22ページ参照
ぬい目の調子が悪い。	①糸調子が強すぎるか、弱すぎる。 ②糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ③針と糸が布に対して合っていない。 ④糸調子皿に、糸がきちんと入っていない。	22～24、26～28ページ参照 13～19、22ページ参照 24～28 参照 14、16、19ページ参照
ぬい目がしわになる。	①糸調子が強すぎる。 ②糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ③送りの設定がまちがっている。 ④かがり爪位置がまちがっている。	22～24、26～28ページ参照 13～19、22ページ参照 10、24～28ページ参照 12ページ参照
ミシンがまわらない。	①コンセントにプラグがきちんとさしこまれていない。 ②電源スイッチがOFFになっている。	5ページ参照 ONにする。
縫い目と布のバランスがわるい。	①切り幅の調節が合っていない。	11ページ参照

別売りアタッチメント

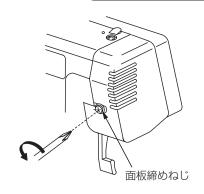
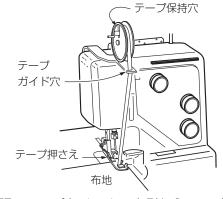
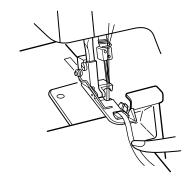
●アタッチメント一覧

①	すそ引き押さえ 200-236-106	ズボンやスカートのすそのまつりぬいが美しくできます。
②	テープ付けセット 200-237-107	市販テープをリールに巻き取って、ニット地等伸縮性のある布地の肩線や脇ぬいなどの伸び止めに使用します。
③	コード付け押さえ(1) 200-238-108	飾りコード付け、フィッシュライン（テグス）付けによる波立てフリル等に使用します。
④	コード付け押さえ(2) 200-239-109	広幅巻きぬい（芯入れ）でテーブルクロス等の縁取りに、またニット地に毛糸等を一緒にぬうと伸び止めの効果がでます。
⑤	ビーズ付け押さえ 200-240-103	市販ビーズによる衣服のビーズ飾りぬい等に使用します。使用ビーズ径は１～4mmです。
⑥	ゴムテープ付けアタッチメント 200-242-105	衣服のすそ等のゴムテープ付けが簡単にできます。市販のゴムテープ 3.5 ～ 8mm 幅のものが使用できます。
⑦	布ガイド 200-243-106	フラットロック、ピンタックぬい等へ多様に使用できます。布のガイドや布の切り代のガイドに使用します。
⑧	パイピング押さえ 3mm 用 200-244-107 パイピング押さえ 5mm 用 200-245-108	パイピング（バイヤステープ）材による補強や飾りぬい。 サイズは3mm（1/8”）用と、5mm（3/16”）用を別々に用意しています。

① すそ引き押さえの使い方

1）標準押さえを外し、すそ引き押さえを取付けます。(P.9 参照)
2）ミシンのセット
　　通常のふちかがりぬいと同じですが、針は右針を使用します。（P.8 参照）
3）布地を 1 図のように折り、アイロンを軽くかけておきます。
4）試しぬいを行ない、針が布の折り山をわずかにさすように調節ねじを回して布ガイドの位置を決めます。
5）折り山を布ガイドにそわせて針が折り山から外れないようにぬいます。
6）布を開いて裏側からアイロンをかけてください。

	セット
送りダイヤル	３～４
布切りメス	使用する
かがり爪 切り替えつまみ	S 側

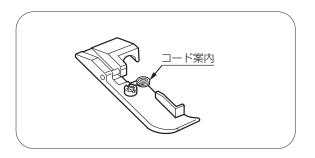
	針糸	上ルーパー糸	下ルーパー糸
糸調子ダイヤルの目安	3	3	3

② テープ付けセットの使い方

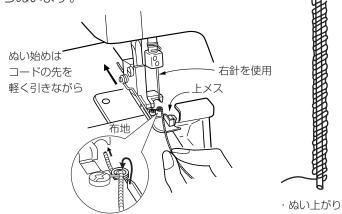
＊ 市販のテープ（幅４～8mm）をリールに巻取り、ニット地などの伸縮性のある布地で肩線や脇線部分をぬうときに伸び止めテープのぬい付けに使用します。

1) 面板締めねじ（M4 × 10）を外します。
2) テープリールを付属の取付けねじ（M4 × 10）で面板と一緒に固定します。
3) 市販のテープをリールの内側からテープ保持穴に差し込み、テープ端を保持しながらつまみを回してテープを巻取ります。
4) ミシンにセットされている押さえを外し、テープ付け押さえを取付け、押さえを上げておきます。（P.9 参照）
5) テープをテープガイド穴に通してからテープ付け押さえのテープ入れ溝に右から入れて押さえの後方に少し出しておきます。
6) 布を押さえの下に差し込み押さえを下げます。
7) テープのタルミをリールのつまみを軽く回してとります。
8) ゆっくりとぬい始めます。

＊ ミシンのセットは押さえを交換する以外、「1 本針３本糸ふちかがりぬい」と同じです。

＊ テープの素材が柔らかすぎて安定性が悪いときは図のようにテープを軽く指で案内してください。

③ コード付け押さえ（1）の使い方

《用途》
・飾り付け
・フィッシュライン付けによるラッフル（波立て）フリル等

1） ミシンにセットされている標準押さえを外します。（P.9 参照）
2） コード付け押さえのコード案内部分にコードを通した上で、押さえをミシンに取付けます。 この時コードの先は押さえの後方に出しておきます。
3） ミシンのセット：右針を使用します。（P.8 参照）
4） 布を上メスの手前まで差し込み、コードが針先の右側になるように両手で案内しながらぬいます。

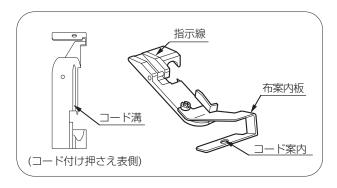
・ぬい上がり

・飾りコード付け

	針糸	上ルーパー糸	下ルーパー糸
糸調子ダイヤルの目安	3	3	3

・ラッフルフリル

	針糸	上ルーパー糸	下ルーパー糸
糸調子ダイヤルの目安	4	3	7

	セット	
	飾り付けコード	ラッフルフリル
送りダイヤル	２～４	R
布切りメス	使用する	
かがり爪 切り替えつまみ	S 側	R 側

④ コード付け押さえ（2）の使い方

1）広幅巻きぬい（芯入り）

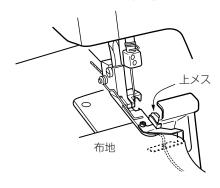
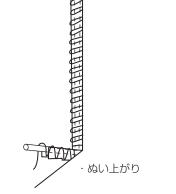
·テーブルクロス等のふちどりに芯を入れることで立体感のあるふちかがりに仕上がります。

1）標準押さえを外し、コード付け押さえを取付けます。（P.9 参照）

2）切り幅調節ダイヤルを回して下メスを右へ寄せます。（P.11 参照）

3）ミシンのセット：左針を使用します。（P.8 参照）

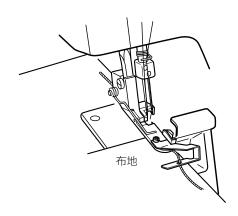
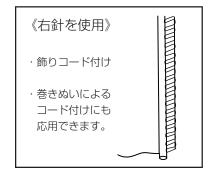
	針糸	上ルーパー糸	下ルーパー糸
糸調子ダイヤルの目安	4	3	7

	セット
送りダイヤル	R
布切りメス	使用する
かがり爪 切り替えつまみ	R 側

4）押さえを上げてコード案内とコード溝にコードを通し、押さえの後方に出しておきます。

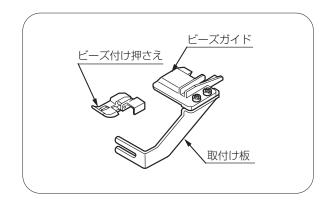
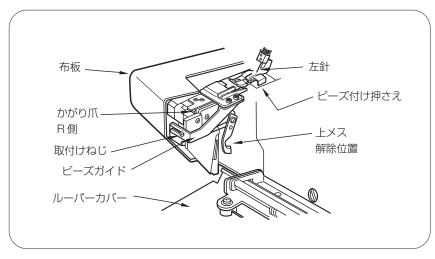
5）布をコードの上から差し込み上メスの手前まで入れて、押さえを下げ、コードをつつむようにぬいます。

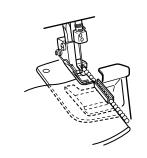
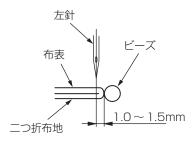
この時、コードが指示線の真下を通る様にして、ゆっくりとぬいます。

2. コード付け（共ぬい）

1）標準押さえを外し、コード付け押さえを取付けます。（P.9 参照）
2）ミシンのセット：通常のふちかがりぬいと同じですが、針は右針を使用します。
3）押さえを上げてコード案内とコード溝にコードを通し、押さえの後方に出しておきます。
4）布をコードの下から差し込み上メスの手前まで入れて、押さえを下げます。
この時、コードに針がささるようにして、ゆっくりとぬいます。

	針糸	上ルーパー糸	下ルーパー糸
糸調子ダイヤルの目安	3	3	3

	セット
送りダイヤル	3～4
布切りメス	使用する
かがり爪切り替えつまみ	S 側

⑤ ビーズ付けセットの使い方

1. ミシンの準備及び、アタッチメントの取付け

1）左針を使用します。
2）標準押さえをビーズ付け押さえに交換してください。（P.9 参照）
3）布板とルーパーカバーを開きます。
4）上メスを解除状態にします。（P.11 参照）
5）かがり爪位置を R にします。（P.12 参照）
6）取付けねじをゆるめ、ビーズガイドを左に寄せて取付けます。
7）取付けねじを締めます。
8）布板とルーパーカバーを閉じます。

2. ビーズ付けぬい：使用ビーズ径は直径２～4mm です。

1）押さえを上げて、ビーズを押さえの向こう側に出してから押さえを下げてビーズを２～３針ぬって仮止めしておきます。
2）再び押さえを上げて、布の表地を表側に二つ折にした布を針落ち付近まで差し込みます。
3）押さえを下げて、ぬい込みます。

（注）
※ 二つ折にした布の端面から１～1.5mm にぬい上がるように、ビーズガイドの左右方向の位置を取付けねじで調整します。

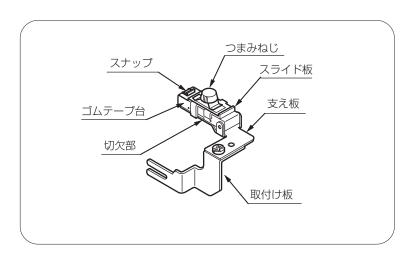
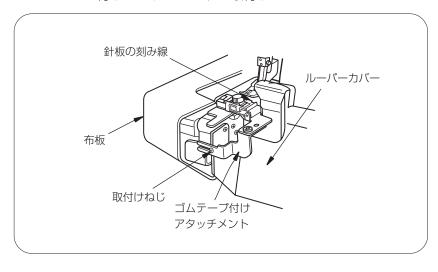
（注）※ ビーズ自体に重さがあり、布がつられ状態になり易いので手前側のビーズを軽く手で持ちぎみにしてビーズを送り込むと、きれいに仕上がります。
※ ビーズの１個が送りピッチに合うように、送りを調節してください。

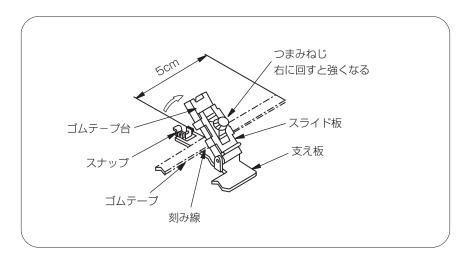
3. ミシンのセット：ビーズ付けぬいの糸調子の目安

4. その他の利用
太ひも飾り、コーデングにも利用できます。

	セット
送りダイヤル	２～４
布切りメス	使用しない
かがり爪 切り替えつまみ	R 側

	針糸	上ルーパー糸	下ルーパー糸
糸調子ダイヤルの目安	1	3	7

⑥ ゴムテープ付けアタッチメントの使い方

1. ゴムテープ付けアタッチメントの取付け

1）布板を開きます。
2）取付けねじをゆるめ、ゴムテープ付けアタッチメントを取付けます。
取付けの標準位置は、スナップを左方向へ倒しゴムテープ台を開き、針板の刻み線と支え板の刻み線を一致させた位置で取付板のねじを締めた位置です。
この状態では、メスでゴムテープを切り落とすことはありません。
3）布板を締めます。
（注）ゴムテープ付けを取付けるとルーパーカバーが開きません。
ルーパーカバーを開ける必要が生じた場合はアタッチメントを取り外してから作業を行なってください。

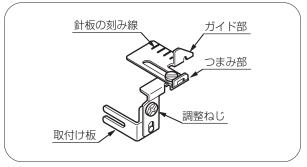
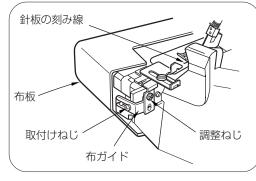
2. ゴムテープのセット：ゴムテープの幅は 3.5 ～ 8mm まで可能です。

1）スナップを左方向へ倒し、ゴムテープ台を右方向へ起こしてください。
2）ゴムテープはゴムテープ台の切欠部へ入る様におきます。
（目安として支え板の刻み線とゴムテープの右端を一致させます。）
（ゴムテープは5cm程度引き出して押さえの下におきます。）
3）ゴムテープ台とスナップを元にもどします。
ゴムテープの幅に合わせて、スライド板でテープを右寄せに調節します。
4）つまみねじを右に回すとゴムの収縮が増大します。
つまみねじを左に回すとゴムの収縮が減少します。
5）ゴムテープの右端と、ぬい目の右端の相対位置の調節は、取付け板の左右調節が可能です。

3. ぬい：布はゴムテープの下のになる様にして押さえの下へ入れて、ゴムテープと一緒にぬい込みます。
つまみねじの加減で収縮の違いが生じることを試しぬいで体得する事がきれいな仕上がりを得る秘訣です。

4. ミシンのセット：ミシンの糸調子は通常のふちかがりと同じ位を目安にしてください。

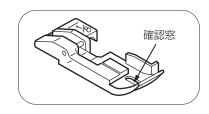
	針糸	上ルーパー糸	下ルーパー糸
糸調子ダイヤルの目安	3	3	3

	セット
送りダイヤル	4
布切りメス	使用する
かがり爪切り替えつまみ	S 側

⑦ 布ガイドの使い方

1. 布ガイドの取付け
   1）布板を開きます。
   2）取付けねじをゆるめ、取付板を右から差し込み、左側いっぱいに寄せてから取付けねじを締めます。
   3）布ガイドの高さは調整ねじをゆるめ、針板の上面に置くように取付けます。
   4）布板を閉じます。
   5）ガイド部は用途に応じてスライドさせ、位置を合わせます。

2. 使用用途：布ガイドは色々なぬいに対して幅広く使用できるアタッチメントの一つです。
   ガイド部または刻み線を針板上の刻み線に合わせて使用すると便利です。
   1）メスを使用しない場合（解除の方法は P.11 参照）
   ・かがり幅を一定の幅にガイドしてぬう作業です。
   ・用途　飾り糸でのフラットロックぬい　ピンタック
   2）メスを使用する場合
   ・ 布の切り落とし幅がある場合など、切り幅を一定に保ちながら、縫製物を長い距離案内することができます。
   ・ 布ガイドには 5mm 間隔で刻み線が入っていますので目安にしてください。

（注）ルーパーカバーの開閉は、布ガイドのつまみ部を左いっぱいに移動する事で可能です。

⑧ パイピング押さえの使い方

＊サイズ別に 1/8″（3mm）用と 3/16″（5mm）用があり、
押さえに表示があります。

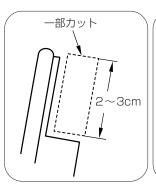
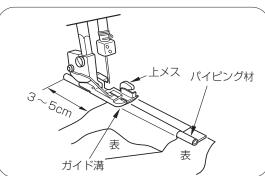
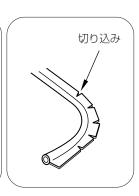
1. ミシンのセット

1）標準押さえをパイピング押さえに交換してください。（P.9 参照）
2）左針を使用します。（P.8 参照）
3）ミシンの糸調子は通常のふちかがりと同じ位を目安にしてください。
（P.22 ～ 23 参照）

2. パイピングのぬい方

1）針を上方位置にして押さえを上げます。
2）パイピング材の先端はぬい代部を 2 ～ 3cm カットしておきます。
3）2 枚の布地を中表にして、パイピング材をはさみ込む様にし、先端を布端より 3 ～ 5cm 出したうえ、布地を上メスの直前まで差し込みます。
4）押さえを下げて、パイピング材が押さえの裏面のガイド溝にあることを確認窓で確かめてください。
5）パイピング材がガイド溝から外れないように手で案内しながらぬいます。

3. よりきれいに仕上げるには

1）曲線部分のぬいは緩やかであれば可能ですが、急なカーブはぬい目が外れることかありますので、試しぬいを行なってください。
また、曲線部のテープ部分には切り込みを入れるときれいに仕上がります。
2）厚い布地にパイピングする場合、パイピングコードの際に「しつけ」をかけると上手に出来ます。
また、薄い布地の場合は手芸用ボンドを用い仮接着すると上手にできます。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より一年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達機能部品、および縫製機能部品を原則としてお買い上げ日から数えて８年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。

  ただし、次のような場合は修理できないときがあります。

  ①保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。

  ②浸水、冠水、火災など、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。

  ③お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。

  ④お買い上げ店、または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。

  ⑤職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理してももと通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社
〒193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
TEL.　お客様相談室　0120ー026ー557（フリーダイヤル）
　　　　　　　　　　042　ー661ー2600
受付　平日　9：00～12：00　13：00～17：00
（土・日・祝日・年末年始を除く）
ホームページ　http://www.janome.co.jp
メールでのお問い合わせ　customer@gm.janome.co.jp

《仕様》

サイズ　：幅 287mmx 奥行き 268mmx 高さ 267mm
重量　：7.3kg
ぬい速度：毎分 1350 回転
使用針　：家庭用　HA X 1 SP 針、11 番・14 番
ぬい目のあらさ　：1 ～ 5mm
かがり幅：3.5mm・5.7mm（3 本糸）
電　圧　：100V　50/60Hz
消費電力：105W　（ランプ　12W）